

生きることを働くことを考える

仕事発見!

129

言語聴覚士



言語聴覚士 内山量史さん ◆プロフィール 1967年、三重県亀岡市生まれ。高校卒業後、福井医療技術専門学校(現在の福井医療短期大学)で学ぶ。90年、春日居サイバーナイフ・リハビリ病院に就職。97年に国家資格ができ、資格を取得。現在は、リハビリテーション部の副部長で言語療法科所属。日本言語聴覚士協会常任理事、山梨県言語聴覚士会会長。

病気や事故で「話す」「聞く」「食べる」ことが不自由になってしまった人々を支援するのが言語聴覚士です。コミュニケーションの回復を援助し、元の生活に戻れるよう患者に寄り添います。「春日居サイバーナイフ・リハビリ病院」(山梨県笛吹市)に勤務する内山量史さんに話を聞きました。【篠口純子】

内山さんは、17歳から80歳代まで、約10人の患者を担当しています。脳こうそくで倒れ、入院している80歳代の女性が訓練室に入ってきました。内山さんは、ごはんとみそ汁の絵が描かれたカードを見せ、

みそ汁をさしながら「これは何ですか?」と問いかけます。

「えーっと。うーん」

「ごはんと一緒に食べるものです」

「うーん。分からない」

「『み』がつきます」



▲国際医療福祉大学(栃木県大田原市)から来た実習生を交えて、打ち合わせ

患者の「話す」「聞く」「食べる」を支援

高校を卒業します。そして、国が指定する養成校(3年または4年制の専修学校)に進むか、大学卒業後に専修学校(2年)に進み、技能と知識を習得します。養成校は、全国で約70校あります。国家試験を受け、資格を得ます。総合病院や大学病院、リハビリテーション専門病院、老人保健施設などで働きます。現在、約2万2000人いますが、不足しているのが現状。約8割が女性です。就業時間は規則正しく、結婚後も長く続けられる仕事だそうです。

この仕事につくには



絵が描かれたカードを見せて、問いかける内山さん

「みそ汁」
「その通り」
脳出血や脳こうそく、頭部外傷などが原因で、脳の言葉をつかさどる部分が損傷すると障害が生じます。

き、退院後に必要なコミュニケーションをイメージするようにしています。患者の社会復帰にかかわるため、「責任があるし、やりがいもあります」

また、代弁者となって患者の思いを周りに伝えていくことも重要な仕事の一つです。もどかしさを感じ、自暴自棄になる患者もいます。「頑張れ」と言葉をかけるだけでなく、心理的に寄り添うことが大切です。

「患者さんに信頼して訓練を受けてもらうよう心がけています」

忘れられない患者がいます。働き始めて2年目。失語症になった女性を担当しました。新人だった内山さんを信頼して訓練に取り組み、消灯後、非常口の明かりで字を書く練習をする姿が目に焼きついています。退院して20年がたちますが、今も年賀状やメールが届きます。

「患者の笑顔が自信につながりました。いろいろな患者さんと出会い、成長させてもらいました。『この先生でよかった』と思われる言語聴覚士でありたい」と話しました。

言葉が出てこない、意味が理解できない「失語症」▽覚えられない、ミスが多い「高次脳機能障害」▽食べ物をかんで、飲み込めない「摂食・嚥下(飲み込むこと)障害」などがあります。「同じ症状の患者さんは一人としていません」

患者は自分の状態を伝えたくても伝えることができません。検査をして、症状に合わせてリハビリをします。「患者さんが入院する前にどんな生活をしていただのかを念頭に置

Q なぜ言語聴覚士になろうと思ったのですか。

A 漁師町に生まれ、父親が遠洋マグロ漁業に出て家を留守にすることが多く、母は看護婦でした。何かあったら血圧計を持ってとんでいく母の姿を見て育ちました。中学時代、野球をやっていた、リハビリの世界があることを知りました。その道に進みたいと思い、言語聴覚士という仕事があることを知ったのです。

Q なるためのアドバイスを。

A パソコンや携帯の画面ではなく、人と直接顔を合わせて話しをしてほしいです。楽しいことは楽しい、悲しいことは悲しいと人の気持ちに共感する心を養うために、人とのつながりをたくさん体験してください。

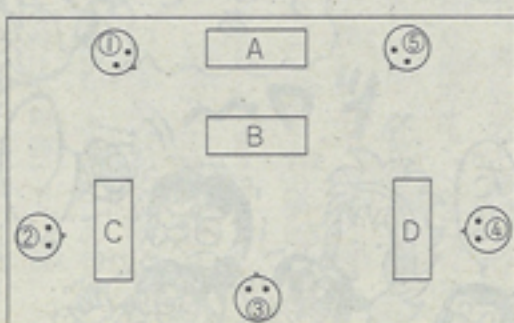
Q.A.

算数脳パズル なぞペー

236

ビル

A、B、C、Dのビルがあります。次のように見えている時に、人は①～⑤のどこに立っていますか。



- (1) ()
- (2) ()
- (3) ()

235の答えと解説

情報量が多い一文にまどわされず、区切りながら「この段階で何がどこにあるのか」ということを一つずつ丁寧に追いかけていきましょう。

答え A